郡 校長室だより

２０２１年１２月２３日
校 長　小崎（こさき）　功二（こうじ）

学校 HP

今日，冬休み前の全校集会で，以下のような話をいたしました。低学年には難しい内容だとは思いましたが，最近，子供たちの中に心配な様子が見られたことや，保護者や地域の皆様にもお伝えしてご理解いただきたいことがあり，このお便りの**裏面には，校長としての考え（保護者向けのお知らせとお願い）を記述**いたしました。

冬休みを機会に，お子様と「学校」について話をする機会を持っていただければ幸いです。

冬休み前全校会での校長講話

「一人になって　自分を見つめ直そう」

これまで「笑顔いっぱい」のための思いやりのある言動を呼び掛けてきました。多くの子供たちが思いやりを持って努力していることで，学校中に笑顔の輪が広がっていることを嬉しく思っています。しかし，ほんの一部なのですが，友達を傷つけたり，先生に対して暴言を吐いたりなど，悲しくなるような言動もありました。一生懸命思いやりを持って頑張っていても，時々悪い気持ちになってしまったことがある人，あるいは，気付かないうちに人を傷つけてしまっている人もいるかも知れませんね。そんな，みんなに聞いてほしいことをお話しします。

友達や先生にひどいことを言ったりしたりする時，「だってあいつが悪いんだ」「学校が悪いんだ」「先生が悪いんだ」など・・・「自分は悪くない」と，誰かのせいにするものです。でもその時，自分はどうなのでしょうか？いらだって荒れた気持ちでいたり，あるいは，意地悪でふざけた気持ちでいたりして，そんなときは，自分を見つめることができなくなっているのではないでしょうか。まだ幼すぎて，自分の言動を振り返ってみることができない人もいるかも知れません。

誰かのせいにばかりして，自分を振り返ることができなくなってしまうことは，自分自身をだめにしてしまう，自分にとって何もいいことのない，とても悲しいことです。学校にわざわざ集まるのは，自分をだめにするためではないはずです。

私は，郡山小学校の子供たちが大好きです。一人残らず，とても大切です。だからお願いします。もう一度，静かに自分を見つめ直してほしいのです。

明日から始まる冬休みは，学校を離れ，家族だけで過ごす時間が多くなるでしょう。さらに，一人きりになる時間もあると思います。この期間，皆さんの中にある悪い心が栄養にしている「あいつのせいだ」「先生のせいだ」「学校のせいだ」という言い訳は使えません。是非一人になって，自分のこれまでの行動や言動を振り返り，自分を見つめる時間を持ってください。自分を見つめるというのは，自分の悪いところを探すことではありません。周囲にたくさんの人がいる中で，周りの人たちに，つまり自分の外側に向いている気持ちを，自分自身，自分の内側に向けて考えてみることで，人間にとって必要なことです。静かに自分を見つめることで今の自分を理解して，これから自分がどのように進んでいけばいいか，これからのための目標を決める，自分のために大切な作業です。

冬休み明けから，自分がどのように行動すればいいか，どう行動すれば，自分をより高めることになるのか，誰のせいでもなく，自分のためにどうすればいいのか・・・。「自分のために」考えてみてください。

休み明けに，じっくりと自分自身を見つめ直した皆さんに会えることを楽しみにしています。

切り取り線

学校への御意見・御要望・校長に知らせたいこと　など

2021 年 12 月 23 日（　）年（　）組 児童氏名

保護者の皆様へ

思想信条の自由と言動の自由

日本は民主主義国家であり，社会の中での個人の自由は尊重されなければなりません。日本国憲法の柱である「基本的人権の尊重」，その中に「思想信条の自由」という理念があります。何を考えても思ってもいいわけですが，そこから一歩「言論」「行動」に踏み出した場合，その権利は当然，同様に基本的人権を有する国民同士で構成された社会の中で行使されるものであり，他者の人権に対する侵害や公共の福祉に反することは許されず，言動の自由には制限があります。学校でも同様であるはずです。

小学校では，日々接している児童と教員，特に学級担任との間に，特別な関係性が生まれます。お互いの信頼関係が教育的に重要であることは言うまでもなく，その構築のために学級担任は日々刻々，休み時間も含めて休みなく子供たちと接し，その背後にあるご家庭，保護者の皆様との連絡やご要望への対応等を続けています。その日々の中で，子供たちの中に，一般社会とは隔離された環境下での，ある種の「度を越えた甘え」を感じることがあり，対応に苦慮することがあります。

保護者から学校に対していただくご連絡の中で多いのは，ご自身のお子様の学校生活における何らかの被害を訴えて対応を求めるもので，その対応に際しては，学校から加害児童の保護者に連絡を差し上げることもあります。学校と保護者のやりとりの多くは，このような児童同士のトラブル対応で，近年特に増加していると感じています。もちろん児童間のトラブル対応やいじめ防止等への対応は重要であり，日々責任を持って全力で取り組んでおりますが，一方で，同じ問題行動で周囲に迷惑をかけていても，被害者が特定されないようなものや，児童の教師に対する暴言等に対しては，学校から保護者に連絡することは希です。保護者は，学校から連絡が無ければ，ご自身のお子様のことで心配な面を感じることがあっても「学校の中でのこと」「学校の責任」「教員の仕事」という感覚で，無関心でいることが多いのではないでしょうか。これはもちろん，郡山小学校だけの問題ではありませんが，大切な郡山小学校の子供たちのために，校長として，保護者の皆様にもこれまで以上に，ご自身のお子様の学校での様子に関心を持っていただきたいと考えています。ご家庭と学校で見せる子供たちの姿は違うもので，中には，前述のように保護者には伝えていないこともあります。

一例を挙げると，本校においても，悲しいことですが，担任が児童の問題行動に対して指導する際，児童が担任に対して反抗的な態度をとり，ごく一部ではありますが，「死ね！」などという暴言を吐くこともあります。テレビやゲームやネットなど，子供たちの日常にあふれている言葉であり，軽い気持ちで使うのかも知れませんが，言葉だけでも周囲の児童に不快感を与え，教職員の人権を侵害する行為です。もちろん担任はその場で随時指導しますが，学校には警察権も裁判権もありません。体罰防止の観点から，指導の「厳しさ」が児童にとって苦痛と感じられることの無いように配慮することも強く求められています。教育の限界を感じることさえあります。

ご家庭で，児童が保護者に向かって乱暴な言葉を吐くこともあるでしょう。しかし，学校を含めて，家庭外での他人に向かっての暴言は，子供であろうとも許されることではありません。中には「家庭ではいい子で学校では問題行動を繰り返す」という場合もあります。基本的人権に対する侵害行為や甘えた言動は，「先生にも問題がある？」「学校の責任？」という議論とは切り離して考えなければなりません。（学校や教師に問題がある場合には，批判は常に私が受け，誠心誠意対応致します。）

法的倫理的に許されない言動については，家庭教育として，保護者が日頃からご自身のお子様に対して，毅然とした責任ある態度で指導していただきたいのです。ご自身のお子様にだけでいいのです。子供たちが教育の場に向かう前提としての最低限の規範意識に対する指導は，家庭教育が担うべきです。各ご家庭で保護者からしっかりと指導を受けた子供たちが学校を公的な場と認識して節度を持ち，その前提で学校に集うことで初めて，公教育が成り立ちます。子供たちが自分自身を見つめ直して正しい方向に進んで行くためには，学校と連携したそれぞれの保護者からの働きかけが不可欠です。子供たちが心豊かに正しく成長し，自律した大人になることが，保護者と学校の共通の願いであるはずです。

今後さらに，学校からも情報提供や情報共有のための努力を続けて参りますので，ご家庭でも子供たちの学校での様子に関心を持ち，話題にしていただき，学校との連携を図りながら，大切な子供たちの健全な成長を支えていくために，ご協力いただきますようお願いいたします。